

令和7年度 次世代ユネスコ国内委員会 第1回会合

次世代ユネスコ国内委員会の 令和6年度活動報告

次世代ユネスコ国内委員会

2025年6月4日

3回 ユネスコウィーク



令和6年度は「現在活動しているユースによるユネスコ活動の活性化」に重点をおいて活動

令和6年度活動方針

- ①現在活動しているユースによるユネスコ活動の活性化（令和6年度の重点領域）
- ②ユネスコ活動に参画するユースの裾野の拡大

事業構成

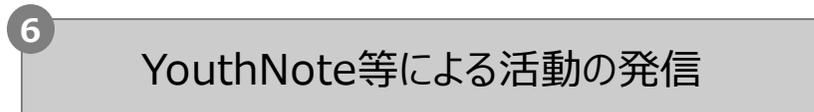
ユネスコ活動への参画層・
取組意向層と連携



当委員会の知名度向上と
ユネスコ活動への関心潜在層獲得



ユースのユネスコ活動に対して関心を抱くステークホルダーの拡充



1 教育ワーキンググループの実績と成果

企画名	ローカルSDGsユースネットワーク拡大作戦～地域でSDGsに取り組む学生のための仲間づくり企画～(2024年9月)
対象	ローカルSDGsの取組みに興味のある・すでに取り組んでいるユースの方、ローカルSDGsに取り組むユースの活動を支援したい方
概要	きんき環境館主催のイベントにて、奈良教育大学ユネスコクラブ、OSINTechと共に企画立案に協力しました。企画では関西のローカルSDGsやESDに取り組む団体が取組紹介を行った後、参加者交流を行いました。
成果	大学生から若手社会人のユースの他、ユースの活動に関心がある方から合計42人の参加が得られました。委員会の取組について発信するとともに、 関西で活動を行う多様なユースとつながりを作ることができました。 令和7年度は同様のイベントをユースだけで実施するために、このイベントでつながったユースと企画の検討を始めています。
様子	  

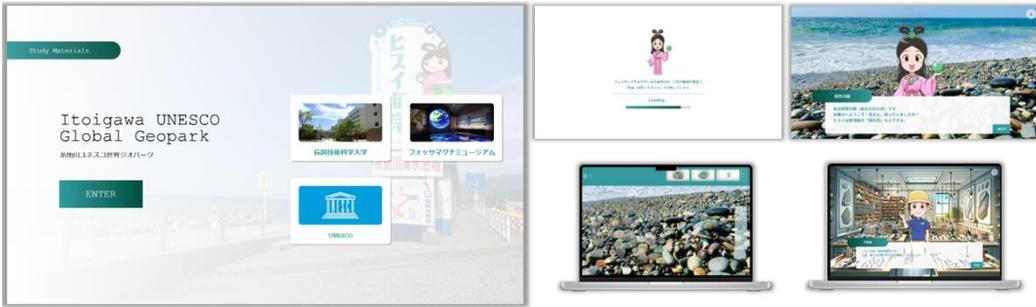
他活動の実績

- 「第5回ユネスコスクール関東ブロック大会」にて分科会を運営し参加者と共にこれまでのユネスコ活動の意義や目的を再確認しました。(2024年10月)
- 「ユネスコわかものプロジェクト」を防災をテーマにユースを対象にユネスコクラブと共に共催しました。(2024年10月)

他活動の成果

ユネスコスクール関東ブロック大会では、都立山崎高校（ユネスコスクール）16名の生徒と交流したことをきっかけに、次年度の訪問授業を提案いただきました。さらに、玉川大学や奈良教育大学のユネスコクラブとイベントを協働で運営し、横のつながりを強化しました。

2 科学ワーキンググループの実績と成果

企画名	糸魚川ユネスコ世界ジオパーク×長岡技術科学大学の連携
対象	長岡技術科学大学「SDGsプロモーター」 フォッサマグナミュージアム 職員
概要	糸魚川ユネスコ世界ジオパークの魅力発信を目的として、 当委員会と長岡技術科学大学が糸魚川市で調査および体験活動を実施 しました。また、糸魚川ユネスコ世界ジオパークとの効果的な連携方法を探るため、参加者にアンケートおよびディスカッションの実施をしました。(2024年2, 8月)
成果	世界中どこからでもアクセスできるバーチャルなヒスイ探しの体験が、魅力発信の効果的な方法として提案 されました。こうした成果が糸魚川ユネスコ世界ジオパークをPRするためのVR教材開発に発展しています。
様子	

他活動の実績

- 第14回日本ジオパーク全国大会におけるユースセッションの運営をサポートしました。(2024年8月)
- 金沢大学 / JU-MAB連携大学 SDGs世代間学習プログラムへ参加しました。(2025年2月)

他活動の成果

- ユースセッションでは、下北、蔵王、鳥海山・飛島、山陰海岸、喜界島のジオパークで活動するユースや先生方それぞれが交流を深める機会となりました。
- JU-MAB連携大学の学生やユース団体「緋熊と黒潮」、金沢大学サークル「大学村」との交流が生まれました。

文化ワーキンググループの実績と成果

企画名	食文化創造都市臼杵ガストロノミーツアー（2025年2月）
対象	食文化に関心を有する大学生、臼杵市創造都市関係者
概要	大分県臼杵市をモデル地として、 当委員会委員が食文化について関心を有する大学生を対象にツアーを開催 しました。特産品・観光資源の視察や地域行政・まちづくり関係者との意見交換、食文化を活用したイベント事例の調査を実施しました。
成果	昨年度の次世代委員会活動において臼杵市を訪問し、創造都市関係者と意見交換を実施しました。その際に挙げられた案をベースとし、臼杵市のご協力のもと、大学生9名が参加する4泊5日のツアー開催を実現しました。ツアーでは、参加者間で 臼杵の食文化の独自性を探り、その社会的価値について議論 を行いました。3月末には臼杵市長への報告を行いました。
様子	  

他活動の実績

- CCNJ国際ネットワーク部会/UCCN国内ネットワーク会議へ参加し、次世代委員会の活動について発表するとともにUCCN加盟都市担当者とのネットワークを構築
- ユネスコ本部UCCN事務局日本人インターンにインタビューを実施

他活動の成果

- 鶴岡市の食文化創造都市加盟10周年記念イベント「つるおかふうどフェスタ」に参加しました。世界7都市の食文化創造都市行政関係者やシェフと交流し、各都市のユース活動の状況を把握しました。

4 ユースフォーラムの実績と成果

<p>企画名</p>	 <p>Youth Forum 2024/25</p> <p>今から、ここから、わたしから ユースが集い、創るユネスコ活動の未来～</p>
<p>対象</p>	<p>全ての方（特にユネスコ活動に関心のあるユースの方）</p>
<p>概要 ・ 要点</p>	<p>ユネスコに関連する活動に取り組んでいるユースの世代縦断的、分野横断的な交流、ネットワーキングの場を創出し、ユースによるユネスコ活動の活性化を図ることを主な目的として、全体会やテーマごとの分科会、ブース出展等を通して、参加者同士で交流し、学びや知見を共有できる機会を創出しました。</p>
<p>様子</p>	 

実績・成果

- **127名**（会場80名／オンライン47名）うち、ユース参加者47人（会場）が得られました。
- ユネスコ活動を行うユース団体と連携して分科会を実施したことで、**つながりを強化**できました。
- 本企画をきっかけに参加者から委員会について理解が深めてもらったことで、**新規委員応募者数の増加につながりました**。
- 世代縦断的、分野横断的な交流、ネットワーキングの機会創出および学びの共有ができました。
 - 参加者の声：自分が興味を持っている分野のお話や先輩方の活動を知ることができとても**貴重な時間**になった。

5 国際会議/イベントへの参加と報告

主な国際会議/イベント参加リスト

時期	国/地域	イベント名
8月	カザフスタン	The Third International UNESCO Model “Ethics of the use of Artificial Intelligence in Education”
9月	タイ	6th Asia-Pacific Meeting on Education 2030 (APMED 6)
12月	韓国	UNESCO International Forum on the Futures of Education



国際会議/イベントの報告会を実施

UNESCO関連の 国際会議/イベント に参加して

～世界の潮流とユースへの期待～

2月23日（日） 20:00-22:00

2023-2024年にかけてUNESCO関連の国際会議/イベントに参加した次世代ユネスコ国内委員が、それぞれの経験や気づきについて発表します！後半は発表者同士のトークセッションを行います。奮ってご参加ください！

形式：オンライン（Zoom）
参加費：無料
言語：日本語
主催：次世代ユネスコ国内委員会

申し込みはこちらから → 





内容：国内のユース世代を対象に、各委員が国際会議/イベントで得た学びを伝えるとともに、世界でユースがどのようなことを期待され、海外ユースとの連携の可能性について議論しました。

6 Youthnoteで発信

広報の概要 未来共創プラットフォーム上の Youthnoteにおける発信

広報の目的 次世代ユネスコ国内委員会の活動の定期的な発信による関心層の獲得及び知名度の向上

日時	タイトル
2024年 10月31日	第3回ユネスコウィーク ユースフォーラムの開催に向けた次世代委員の思い～ユネスコ活動に関わるユース世代の縦・横のつながりをつくりたい！～
2024年 12月17日	まさかりの大地から広がる未来～下北ジオパーク全国大会で感じた時空を超えるつながり～
2025年 2月14日	ユネスコスクール関東ブロック大会に参加して
2025年 2月17日	令和6年度次世代ユネスコ国内委員会 メンバー紹介
2025年 3月31日	土・水・発酵-ユネスコ創造都市「白杵」に息づく食文化～次世代ユネスコ国内委員会委員によるガストロミーツーリズムの実施
計:14本	



令和6年度の取り組みの成果と課題

活動方針	①既存のユースによるユネスコ活動の活性化	②ユネスコ活動に参画するユースの裾野の拡大
成果	各活動において地域に根差したユネスコ関連団体との連携が実現しました。	委員会に対する個人の認知の高まりを実感しました。
課題	連携が実現している団体は限定的であり、さらに多くのユネスコ関連団体と連携していく必要があります。	イベントへのユースの参加者数は個人での参加は増加しているものの、団体としての参加は少ない状況にあります。